

1 教育目標

これからの義務教育に求められるのは、激しい変化とともに日々進化する社会の中で、自立し、社会に貢献し、たくましく生きることができる「人間力」の向上である。

その実現に向けて、杉並区教育ビジョン2022が謳う「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を基本理念とし、生徒・保護者・地域社会の実態に基づき、次のとおり「校訓」及び「教育目標」を設定する。

- ◎ 校訓「伸びていく」 ～自ら学び、自ら治め、自ら営み、自らを愛す～
- ◎ 教育目標「自立力 社会力」

教育活動において、教育目標「自立力、社会力」を生徒につけさせるために教育実践を推進する。生徒が「主体性をもって実践する行動力、社会に大きく貢献できる実践力」をつけさせるためには、教育活動全てにおいて、教育目標「自立力、社会力」を意識し、教職員が意図的、計画的に指導することを重視する。

2 めざす生徒像

- (1) 主体的に学び、考え、判断し、表現できる生徒
- (2) 互いを認め合い、他者と協働できる生徒
- (3) 社会に貢献し、たくましく生きる力を身につける生徒

3 めざす学校像

- (1) 自立力、社会力を基盤とする自治力のあふれる学校
- (2) 生徒一人ひとりが自らの良さを発揮し、意欲的、創造的に活動する学校
- (3) 教職員一人ひとりが人権感覚を磨き、自信と誇りをもち、共に成長していく学校
- (4) 開かれた学校
- (5) 特別支援教育が充実している学校

4 学校経営計画の重点目標

- 教育活動の改善 —ICTのさらなる活用と教育DXの推進を図る
- 豊かな心の育成 —好ましい人間関係の形成と居場所作りを基盤として—

5 学校経営計画の基本方針

(1) 豊かな心の育成

- ① 生徒間および教師との互いの人格を尊重しながら信頼関係を築き、生徒一人ひとりが自立する力、集団の一員としての社会力がつくよう、学年・学級経営案に基づいた学級経営を充実させる。
- ② 様々な体験学習を通して、豊かな人間性や社会性、人権尊重の意識を育む。
- ③ 多様性を認め、人権意識を高める指導を通して、いじめのない学校作りを推進する。

(2) 教育活動全般における自己肯定感の向上

- ① 教育活動をとおして、自己の目標をもたせると共に、将来に向けての夢（ビジョン）をもたせる。
- ② 教育活動、委員会活動、部活動等をとおして、集団の一員であることを自覚させ、共に生き、成長していく自立力を育成する。
- ③ 子どもの思いを尊重し受け止め、個々の違いを受け止めることにより自己肯定感を高め、寛容な気持ちを育む。

(3) 生涯学習の視点から、「確かな学力の定着」を図る授業実践

- ① 生徒一人ひとりの関心を高め、意欲的に学びたくなる ICT を活用した授業を展開する。また、少人数授業を利用して個に応じた指導を工夫する。
- ② 校内研究をとおして、主体的・対話的で深い学びへの授業改善に取り組み、生徒主体となる授業実践を図る。
- ③ 小中の合同研修をとおして、小学校での学習を生かした授業を実践し、学びの連続性を意識する。

(4) 学校運営協議会を設置し、地域・保護者・学校が一体となった学校運営

- ① 学校運営協議会を開催し、教育活動の充実や学校運営の改善に結びつけ、よりよい学校教育の実現に向けて取り組む。
- ② 保護者・地域の情報等に対して謙虚に耳を傾け、誠実に対応する。
- ③ 地域の教育力の活用や地域活動への積極的な参加を促し、生徒の自立力、社会力を育成する。

(5) 特別支援教育の充実

- ① SC や関係諸機関と連携し、特別な支援を要する生徒についての個別指導計画を作成し、合理的配慮に基づく支援を充実させる。
- ② 巡回指導教員、特別支援教室専門員と連携し、配慮を要する生徒への理解と支援の充実を図る。
- ③ 校内支援委員会を週 1 回実施して情報交換を行い、支援についての共通理解を徹底する。
- ④ ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境を整え、生徒が集中して授業に取り組める学習環境の整備に努める。

(6) 教職員の資質向上、課題解決に臨む組織力の高い職場づくり

- ① 生徒に確かな学力を身に付けさせるために主体的・対話的な授業づくりの校内研究をとおして、授業力の向上に努める。
- ② 教職員一人ひとりが日常の職務を見直し、人権感覚を磨くとともに常に公務員の自覚をもってサービスの厳正を図り、教職員相互で事故防止を図る。
- ③ 教員相互の連絡・報告・相談を徹底し、組織的な対応と実行力を高める。また、教員同士が切磋琢磨し、教員の質を向上させるよう教え合いの体制（OJT 体制）を構築する。
- ④ ICT 機器を積極的に活用し、考える場面や少人数での話し合いや発表する場面を意図的に取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。さらに、個別での最適な学びではタブレット内のコンテンツを積極的に活用し協動的な学びを展開する。

6 令和6年度の目標と具体的方策

経営目標		短期目標	具体的な方法
生 徒	確 か な 学 力	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学ぶ授業の実施 課題解決型の授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒が考える時間を確保し、グループによる学び合い、授業や単元の振り返り等を行う 話し合い活動を取り入れた協働課題解決型授業の実践 タブレット等の ICT 機器を活用した授業の推進
		<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と向上 	<ul style="list-style-type: none"> 後期にかけて定期テスト前補充学習・質問教室の充実（スタディールーム）を図る 夏季休業中のパワーアップ教室の実施（3日間） 朝の時間を活用した朝学習や読書活動の充実 学校司書との協働による学校図書館の利用の充実
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教科説明会資料を活用した学習指導とアドバイス内容の充実 タブレットの活用による家庭学習の推進
		<ul style="list-style-type: none"> 検定、コンクールの活用・参加 	<ul style="list-style-type: none"> 英語・漢字検定等及び各コンクールへの参加の奨励 検定試験前の対策教室の実施 教科担当や部活動から、検定参加の積極的な働きかけ
	豊 か な 心	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となつて力が発揮できる学年・学級経営 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、学年行事をとおして、学級でのよりよい人間関係の構築 体験活動を通して、豊かな人間性や社会性、人権尊重の意識を育む 生徒会や委員会活動の活性化を図り、生徒の意見が反映され、生徒が主体となつて学校を作り上げていく意識の醸成
		<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「特別の教科 道徳」における道徳授業の改善と内容の充実 授業をとおして、人権意識向上と他者を思いやる心の育成
		<ul style="list-style-type: none"> 教育相談活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ、不登校の出現率ゼロを目指した教職員による教育相談、個人面談等の実施 地域と協働して不登校生徒対応の充実を図る 1年生全員を対象とした SC による面談の実施 「なんでも相談アンケート」や「ふれあいトーク」による生徒の心の把握と相談の充実
		<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校いじめ防止基本方針」に基づく指導の徹底と学級担任による状況把握、学校での年3回の実態調査の実施 校内いじめ対策委員会を中心とした組織的で迅速な対応、いじめの解消・解決
	健康・体力	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康づくりと体力向上の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育や部活動指導における体幹運動、持久力向上の取り組み 養護教諭、栄養士を中心とした食に関する教育と食物アレルギー対応の充実 感染症予防についての指導の徹底を図る
	安全指導	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理と事故防止の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な状況を想定した月1回の避難訓練等の実施 実技教科の年間指導計画に沿った安全指導 生徒会を中心に「SNS 東田ルール」を作成させ、生徒への危機管理指導の実施

	キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた学習活動の充実 ・キャリアパスポートの作成
	小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育校としての取り組みの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場面で、合理的かつ効果的な小中連携を模索し、生徒にとって義務教育9年間で系統的でよりスムーズに過ごせる環境作りを行う。 ・小中一貫を意識したコミュニケーション力を高める生活指導の充実
教職員	資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善と授業力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を積極的な活用推進 ・全教員参加による授業研究の実施と講師による指導助言の実施 ・相互授業参観をとおした相互の指導力の向上
		<ul style="list-style-type: none"> ・サービス事故の根絶 	<ul style="list-style-type: none"> ・体罰や不適切な指導の根絶に向けたサービス事故防止研修の年間3回実施 ・職員会議時に注意喚起を促す資料の提示 ・ヒヤリハット事例をもとにした校内体制の強化
	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員同士の協力・支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画会議の充実による教育活動や学校行事等の組織的な対応と事案決定の流れに沿った起案 ・OJTや外部研修会を取り入れた若手教員の育成 ・ライフワークバランスを考えた会議等のスリム化 ・働き方改革への取り組みについて教職員意識改革と課題改善
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理解と支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒への合理的配慮に基づく支援の充実 ・SC、SSW、特別教育支援課との協働による支援の充実 ・毎週の校内委員会にて情報交換による支援方法の共有化 ・生徒が集中して授業に取り組めるユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備
家庭・地域	信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織との連携と協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした地域行事への参加率の増加 ・学校運営協議会、学校支援本部、PTA等との有機的な組織を編成し、協働体制の構築
		<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信と地域行事等への積極的な参加、協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だより、学校だより、ホームページの定期的な発行・更新と記事の多様化 ・地域の活動に積極的に参加・協力し、活動をとおして社会の一員であることの自覚と社会力の育成 ・積極的な地域資源・人材等の活用を行い連携の強化を図る